メールニュース　2026年　4月28日付　NO.26118

株式会社永盛丸
新造船　遠洋カツオ一本釣り漁船「第八永盛丸」が出港
高速ブロードバンド衛星通信システムや自動釣り機など、労働環境を大きく改善

3月22日、静岡県・焼津港から、株式会社永盛丸の新造船・遠洋カツオ一本釣り漁船「第八永盛丸」（599トン）が出港した。第八永盛丸には日本人13人と外国人14人が乗り組んでいる。

新造船の第八永盛丸は、船齢30年を迎えた旧「第八永盛丸」の代替船として、常石三保造船で建造された。船は水産庁の「もうかる漁業」を活用し、操業の効率化と省エネによる収益性の向上、そして漁船員不足に対応すべく、後継者確保に向けた労働環境の改善など「改革型漁船」として建造されているのが特徴。

船内は操業効率の向上を視野に、自動釣り機を設置し、1年目は3台搭載して操業するが、最大9台を搭載する計画となっている。

初の取り組みとしては、AIを用いた漁場探索および魚の獲れる場所を予測するシステムを搭載し、漁獲情報などのデータの積み重ねることで、AIに学習させて、より精度の高い漁場探索・予想が可能となる。

カツオやビンチョウマグロなどの漁獲物の流通・販売についても、輸出や地産地消など全般的な流通に力を入れ、特に会社が本社を置く西伊豆の鰹節業者には、西伊豆の郷土食品「潮がつお」として販売を予定している。

また、船員の居住区や食堂も拡充され、高速ブロードバンド衛星通信システムを導入することで、漁獲の情報や操業効率の向上だけでなく、乗組員とその家族や友人とのコミュニケーションなど、福利厚生面でも大きな影響を与えている。「第八永盛丸」の今後の活躍が期待されている。

「海員だより」